

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5 年計画の 5 年目)

1. 研究課題

(和文) 漢簡語彙辞典の出版

(英文) Publication of the Dictionary on Han Wooden Slips

2. 研究代表者氏名

富谷至

3. 研究期間

2010 年 04 月 - 2015 年 03 月 (5 年度目)

4. 研究目的

漢代西北辺境より出土した、居延漢簡、敦煌漢簡にみえる語彙を網羅的に蒐集して、文献史料の用例、簡牘資料の用例をあげてその語義を確定し、その成果として『漢簡語彙辞典』を編纂、出版することを目的とする。

5. 本年度の研究実施状況

最終年度にあたる本年度は、報告書の作成と校正作業を行った。まず年度前半を、報告書の一冊である「事項考証篇」の内容報告と検討に充てた。後半は、「事項考証篇」と「辞書篇」の校正方針を定め、各人が校正中に気づいた箇所を修正・補充した。2014 年末に「事項考証篇」の校正は終了、2015 年 1 月末に「辞書篇」の再校を行う予定である。二〇一四年度の担当者は次の通りである(排列は担当順)。藤井律之、吉村昌之、辻正博、大川俊隆、鷺尾祐子、井波陵一、森谷一樹、杉本憲司、富谷至、宮宅潔、佐藤達郎、鷺尾祐子、鷹取祐司、門田明。また、班員による研究報告、および、招へい外国人学者・招へい外国人研究員による講演も行った(7. 本年度の研究実施内容を参照)。

8. 共同研究会に関連した公表実績

本研究班の成果として、以下の二冊の著書が出版される(2015 年 3 月 25 日出版予定)。『漢簡語彙 中国古代木簡辞典』(岩波書店、ISBN978-4-00-080318-2 C3581) 『漢簡語彙考証』(岩波書店、ISBN978-4-00-061026-1 C3081)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機 関 数	参加人数					延べ人数				
		総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数	総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数
所内		5					200				
学内(法人内)		1					40				
国立大学		2	0			1	80				
公立大学											
私立大学		6	0			2	240				
大学共同利用 機関法人											
独立行政法人 等公的研究機 関											
民間機関											
外国機関		3	2				120				
その他		3					120				
計	0	20	2	0	0	3	800	0	0	0	0

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	
総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す